

取組実績の概要 【2ページ以内】

広島大学は、開学以来、「平和を希求する精神」と「地域社会・国際社会との共存」を大学の理念の一部とし、平成24年には「広島大学国際戦略2012」を策定し「国際的な実践現場で活躍できる人材の育成と国際協力・国際貢献の推進」を目標に掲げてきた。

本事業においては、国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」においても示されている、総合的な発展のための基礎として必要な広い意味での平和の基礎となる、人権・難民・環境など、幅広い分野において、国際大学コンソーシアムINU（International Network of Universities）に参加している大学と連携し、すべての大学が参加する協同教育を実施することで、これらの目的に貢献する「人財」の育成・大学間ネットワークの強化を図った。

大学間コンソーシアム

INUは、1999年に設立された大学間ネットワークで、他のネットワークと比較してもその緊密な協力体制・実質的活動において特徴のあるネットワークとして活動を行って来ている。広島大学は2000年に加盟、2003年以降は理事校となり、各種プログラムを提案、実施するとともに、現在理事長校候補になっているなど、現在も引き続き指導的役割を担っている。

派遣・受入

この大学間コンソーシアムの枠組みを利用して、新入生に対する国際化への動機づけプログラムから長期留学まで幅広い協同教育を実施した。

大学全体の国際化戦略全体、特に事業実施中の平成26年にスーパーグローバル大学創成支援事業のトップ型の13校の1校に選ばれた。平成25年から開始された申請準備また採択にあたり、本学は目標・制度・体制を大幅に変更した。本事業は、スーパーグローバル大学創成支援事業のもとで、大学全体の国際化戦略の中の位置づけとして、特に日本人学生の派遣プログラムを重視することとなった。広島大学全体の国際化戦略においては、多くの学生に対し、また初期に、国際化への動機づけをすることが重視されている。これは、各学部・学科・研究科ごとの学生の語学能力の伸びに関する調査また留学パターンの調査から、新入生への動機づけとその継続が、卒業までの語学力の上昇また長期的な海外留学につながるということが明らかになったからである。そのため、本事業では、受入交流学生を当初計画以上の数受け入れるとともに、派遣事業に重点を置き、派遣交流留学については当初計画の7倍弱の704人を計画期間中に派遣した。

計画期間終了後も継続して大学間コンソーシアムの枠組みを利用した派遣・受入プログラムを実施することを準備している。本事業当初計画数との比較では2倍以上の、年間200名規模の派遣・受入を計画しており、計画期間終了後の平成28年度では9月現在で実現が確実となっている。

Internationalisation at Home

留学生を受け入れる目的は、学生を世界中から1カ所に集めて教育することにとどまらず、プログラム実施を通じて、本学の「学生」「教員」「職員」「マネジメント」が共に「国際化」を実現することにある。留学生を受け入れるだけでは十分ではなく、これらの学生が留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えることのできるプログラムを、ネットワーク参加大学・その教員と協同して作るという、Internationalisation at Homeの観点も同時に重視した。そのため、受入学生が単に本学で教育を受け入れるというのではなく、受入学生とともに日本人学生がともに学ぶ問題解決型手法PBLを利用したプログラムを広島において毎年実施した。

また、協同教育によるプログラムを開発・実施するという作業を実施することにより、学生の相互派遣のみならず、教員・職員の相互派遣を行い、教育・研究分野における相互協力の枠組みを強化した。

質保証

計画学生交流数を達成するとともに、本事業で実施した複数のプログラムの質保証を確保するため、グローバル人財が有すべきコンピテンシーの変化についても複数の指標を使って評価した。

【公表】

学習成果は、ルーブリックを利用した「グローバル・コンピテンシー（国際コミュニケーション、成果志向、自己理解、協調生、異文化理解、リーダーシップ、基本的研究・発表力）」評価を活用した。

また、日本人派遣学生については、グローバル人材についての客観的指標を測定するため、米国心理学者チームが開発し米国（ミシガン州立大）・カナダ（ブリティッシュ・コロンビア大）等60機関が利用しているBEVIテストを日本語化・実施することにより、留学前と帰国後に実施し、留学による様々なコンピテンシーの成長度を客観的に測定する体制、またプログラムの有効性を検証する体制を作った。当該調査の結果は、平成28年12月に本学主催（JASSO共催・文部科学省後援）の国際シンポジウムで発表することとなっている。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	2人	0人	23人	56人	27人	66人	27人	66人	27人	66人	106人	254人
実績	3人	0人	143人	61人	157人	71人	228人	75人	180人	68人	711人	275人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。